

## 短期海外派遣報告書

大阪労災病院 外科

相馬 大人

この度、JACCRO 短期海外派遣制度により、シカゴにおいて開催された ASCO2011 に参加をさせて頂きました。私は ASSCO への参加は今回が初めてであり、海外学会の経験も決して豊富ではなかったもので、非常に楽しみに現地へ向かいました。会場に到着すると、まずはその規模の大きさに圧倒され、受付を済ますだけでも手惑ってしまい、どうなる事かと不安になりましたが、医局の先輩方とも合流することができ、楽しく学会期間を過ごすことができました。

演題に関しては、自分が上部消化管を担当していることもあり、主に胃癌に関する演題を中心に会場へ足を運びました。印象としては、今回の学会で、大きく現在の治療指針を転換させるような発表は無かったように思いましたが、韓国・台湾・中国の 3 ヶ国が参加して行われた第Ⅲ相試験である CLASSIC 試験の結果は、中間解析ではありますが、Stage II / III の胃癌切除後の補助化学療法としての XELOX 療法の有効性を期待させるものであり、今後の追跡結果が待たれる興味深い発表でした。また、本邦からの発表である START 試験のサブグループ解析も、今後、測定可能病変のある患者には S-1 + シスプラチンを投与し、腹膜転移、腹水、胸水中に腫瘍がある腫瘍量測定不能進行胃癌患者では S-1 + ドセタキセルという使い分けができるようになるかもしれないという意味で興味深いものであったと思われます。近年、韓国や中国からの胃癌治療における報告が増えており、日本もこれまで以上に、このような大きな学会で新しい情報を世界に向けて発表することが出来るよう、我々の施設も積極的に様々な臨床試験に参加して行く必要があると感じました。

最後に、JACCRO GC-05 への症例登録に協力して下さった医局員の方々に感謝するとともに、このような機会を与えて頂いた JACCRO の関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。